

カンキツ苗木の生育で問題となる害虫1

苗木育成中に問題となる害虫は、アブラムシ類やハマキムシ類、アゲハ類などがある。ここでは、ハマキムシ類による被害の特徴と防除のポイントを紹介する。

被害の特徴

カンキツに寄生するハマキムシ類は、①ミカンマルハキバガ②チャノコカクモンハマキ③チャハマキの3種があり、主に②・③の種は果実被害を及ぼす。ミカンマルハキバガ(別名:ミカンヒラタマルハキバガ)は、鞘状に新葉をつづり合わせて中に潜みながら柔らかい葉や新梢を食害する。夏芽の時期にも幼虫が発生し、新梢を加害するため、新梢の伸長が阻害され、樹冠の拡大に影響が出る。



写真1 チャノコカクモンハマキ

写真2 チャハマキ

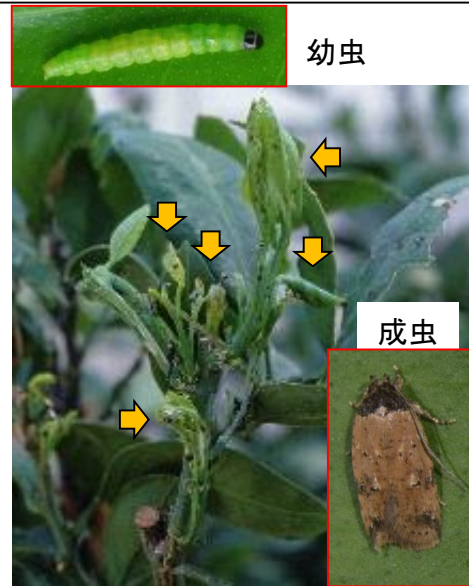
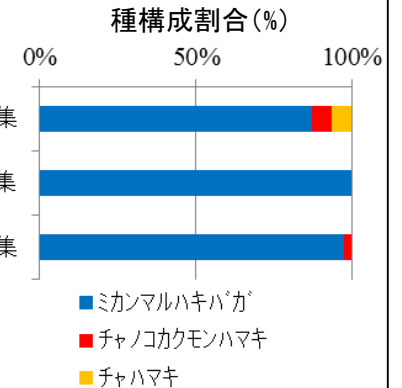


写真3 ミカンマルハキバガによる新梢の被害(矢印部分)と成幼虫



H29年センター内種構成*1

*1: センター内のハマキムシ類の寄生する新梢を採取し、羽化してきた種を確認

新梢での主体はミカンマルハキバガと考えられる

防除のポイント

- 発生時期: 4~11月
- ミカンマルハキバガは、新葉が極小さい時に好んで加害するため、発芽後早い時期に防除を行う
- 登録薬剤:
 - ・オリオン水和剤40(1,000倍)
 - ・ディアナWDG(5,000~10,000倍)
 - ・エクシレルSE(5,000倍)

幼虫の識別点	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	ミカンマルハキバガ
体全体の色	淡緑色	灰色~淡緑色	緑色~淡緑色
頭の色	茶褐色	黒褐色~茶褐色	黒色